GREEN MAP IMPACT

グリーンマップ・インパクト







GREEN MAP IMPACT CONTENTS

グリーンマップ・インパクト



グリーンマップとは

住んでいるまちの環境にいいところや悪いところを、自分たちで調べて、世界共通のアイコン(絵文字)を使って環境マップをつくる活動のことです。1992年の地球サミットをきっかけにニューヨークでスタートして以来、今や世界50ヵ国に広がる国際環境プロジェクトに成長しています。日本では、COP3の開催された1997年に京都で始まり、ここ愛知では、2005年の「愛・地球博」をきっかけに活動が盛んになりました。

グリーンマップの最大の特長は、その人のテーマや 目的によって活動を多様に展開させることができる こと、また共通アイコンを使うことで、ローカルな活 動がネットワークでつながり、ダイナミズムを生み出 すことができることです。

発行の主旨

国内はじめ世界に広がっているグリーンマップづくりですが、実際には、どんな変化や影響をもたらしているのでしょう。

グリーンマップはプロセス重視の活動です。私たちは、地図を完成させたら終わりということではなく、その地図づくりのプロセスを通して、「周囲にどんな影響を及ぼしたか」「どんな変化があったか」という視点に目を向けることが、グリーンマップがまちづくりの道具だという意味で大切だと考えています。

今回の冊子では、グリーンマップ活動が地域や人々に与えた影響や変化について情報収集し、愛知を中心に国内・海外からユニークな事例をまとめてみました。 完成した地図をみるだけでは伝わらない、多様な可能性をこれらの事例から感じていただけるのではないでしょうか。

地域の環境をより良くしたいと考える人々の心を 動かし、みなさんの活動にヒントを与える情報ツール として、この冊子が役立てばうれしいかぎりです。

中川恵子(グリーンマップあいち)



Impacts on Eco-Action

エコ活動

地図づくりに参加した人々の意識変化を促しエコ活動の促進、発展につながっています。

- **02 大須エコマップ/OSHARECO栄2Rマップ** 愛知県名古屋市
- 04 ハマチャリ新聞+ロードマップ 神奈川県横浜市
- **06 豊田市環境学習施設「eco-T」** 愛知県豊田市
- **07 ディア・グリーン・プレース** スコットランド



Impacts on Children & Youth

子どもたち

環境教育的な視点でグリーンマップづくりを活用し 子どもたちや若者の育成を通じて 教育場面や地域づくりに影響をもたらしています。

- **08 NPO Fundación Geovida** コロンビア
- 10 ひろしまエコピースマップ 広島県広島市



Impacts on Community

コミュニティ

多様な角度からのグリーンマップづくりが その地域に暮らすさまざまな層の人々の よりよい暮らしやエコ活動をサポートします。





14 舞岡柏尾地域福祉シルバーマップ 神奈川県横浜市

15 グリーンアップルマップ アメリカ



W

Impacts on City Planning

まちづくり

メンバーの専門性を生かした地図づくり また継続的な「まち歩き」などの活動が 本格的なまちづくり活動に影響を与えています。

- 16 東京自転車グリーンマップ 東京都
- **18 ハコダテ・スローマップ** 北海道函館市
- **20** グリーンマップ in おかざき 愛知県岡崎市
- 21 グリーンマップ尾張旭 愛知県尾張旭市





Impacts on Public Policy

行政との協働

行政が掲げる広範なテーマプロジェクトに グリーンマップを手法として使うことで 成果を挙げることができます。

22 地球温暖化防止プロジェクト





Impacts on Nature Protection

自然保護

水辺や干潟、流域など、テーマやエリアを限定して 地図を作成し、違った視点からの地域の捉え方を 示唆することで変化を促しています。

- 24 六条潟グリーンマップ 愛知県三河湾
- 25 淡水河川廊道グリーンマップ 台湾
- **26 サンタモニカとバローナ流域グリーンマップ** アメリカ

Impacts on Traditional Culture 伝統文化

伝統文化遺産に焦点を当て、その保全や提案を通して 現状のまちづくりに影響を与えています。

- 28 鎌倉グリーンマップ 神奈川県鎌倉市
- 30 高岡グリーンマップクラフト探検編 富山県高岡市
- **31 グリーンマップ・マンダラ・ボロブドゥール** インドネシア



企業 (CSR)

企業の社会貢献活動の一環で NPOとの協働で、グリーンマップを手法として取り入れ 社員や地域社会に影響を与えています。

- **32 職場の環境改善のためのマッププロジェクト** 台湾、他
- 34 デンソーハートフルデーDECOウォーク刈谷 愛知県刈谷市









35 その他のユニークなインパクト/Other Impacts

その他、世界のグリーンマップから、5つのユニークなインパクトをワンポイントで紹介

36 ネットワークインパクト / Impacts of Green Map Network

愛知、日本、アジア、世界… ネットワークすることによるインパクト

38 万博インパクト/EXPO Impacts

「愛・地球博」が起爆剤となり、多くの展開を生み出した愛知でのグリーンマップ活動の動きを紹介





40 グローバルアイコンについて

活動エリア:愛知県名古屋市(中区大須商店街&栄周辺)

大須エコマップ/OSHARECO栄2Rマップ

URL: http://www.gm-aichi.net/active-map/osu-ecomap/mail: staff@es-net.jp



「EXPOエコマネー」「グリーンコンシューマー」「2R」 時代のキーワードで環境行動を呼びかける



商店街を舞台に、行政や グリーンコンシューマーの 活動グループと連携

愛知県には、「愛・地球博(2005年開催)」をきっかけに始まったムーブメントに、「グリーンマップ」と「EXPOエコマネー」の2つがあります。 EXPOエコマネーは、レジ袋を断るなど環境にやさしい行動をするとポイントがもらえ、エコ商品などと交換できるしくみのことです。 そのポイントを交換するEXPOエコマネーセンターのサテライト会場がオープンすることになり、新たにできるサテライトの2つをつなぐ場所にある大須商店街でマップができないかという名古屋市からの提案をきっかけにこのプロジェクトがスタートしました。



商店街でできるエコなお買い物をテーマに歩く。

大須商店街は、バラエティに富んだお店が並び、幅広い層の人たちでにぎわう活気あふれる商店街です。この商店街をグリーンコンシューマー(環境に配慮した買い物をする人のこと)の目線で歩き、量り売りや自然素材、リユース、リサイクル、修理など15のアイコン(下記表参照)で表せるお店を探し出し、それらのお店で買うと、EXPOエコマネーと交換できるスタンプがもらえるというしかけも盛り込んで作成されたのが、商店街初の「大須エコマップ」です。





大須エコマップ/2007年発行 発行元:名古屋市 企画編集:大須エコマップ作成会 制作:NPO法人中部リサイクル運動市民の会









2R (Reduce・Reuse) マップづくりに発展

大須エコマップは、EXPOエコマネーの普及をめざす名古屋市、市内各区の「環境にやさしい買い物ガイド」づくりを行う市民グループのネットワーク「グリーンコンシューマー名古屋」のメンバー、グリーンマップあいち、そして大須商店街連盟との協働で作成されました。行政・NPO・商店街との協働という視点だけでなく、エコマネー、グリーンコンシューマー、グリーンマップと、それぞれのグループのテーマやコンセプトを合体させて、いっしょに一つのマップづくりに取り組めたことは、商店街を舞台とした環境活動の協働事業モデルづくりにつながったという点で大きな成果でした。メディアの注目も浴びました。

さらに、このマップが動機づけとなって、次の活動アイデアに発展していったことも大きなインパクトです。まず、完成したマップを使った商店街のまち歩きワークショップが名古屋の一大イベント「環境デーなごや」の一環で行われ、そこに参加した学生が中心となって、次なる「2Rマップ」づくりに発展していきました。



OSHARECO栄2Rマップ/2007年発行 発行元:環境デーなごや実行委員会 制作:NPO法人 中部リサイクル運動市民の会 「おしゃれにエコを!」という若者たちの感性が生かされたマップ。

これは3R(リサイクル・リユース・リデュース)の中でも、とくにリデュースとリユースが大切だという考えから、「2R」をテーマに、名古屋の中心繁華街、栄周辺のお店を調査してまとめたもので、若者らしい感性で「OSHARECO(おしゃれこ)栄2Rマップ」として完成しました。この動きもメディアに取り上げられ、周囲の反響を呼びました。このように若者たちの行動に波及していったことは、とてもうれしいことです。彼女たちは、全国大学生環境活動コンテストに、「OSHARECOマップ作成会」として参加して、見事に入賞を果たしました。

こうした取り組みが都市の中で連鎖的に拡 がっていくことが、まさにインパクトであり、 今後も期待したいところです。

文:中川恵子(グリーンマップあいち)

(下左)完成した大須エコマップをみながら商店街歩き。給茶スポットでマイボトルにお茶を入れてもらう。(下右)マイはし、マイボトル、給茶スポットなどをキーワードにお店調査。ワークショップで発表(2007年8月)。(右上)新聞にも大きく掲載される。(右下)全国大学生環境活動コンテストで入賞!







マイ箸販売店…

ら

活動エリア:神奈川県横浜市

ハマチャリ新聞+ロードマップ グリーンマップ横浜、NPO法人ナイスヨコハマ、(株)YC・ドキュメント

URL: http://niceyokohama.web.infoseek.co.jp/

mail: dezine@mail.goo.ne.jp



NPO、企業、行政がコラボレーションしながら 人のスケールで横浜をとらえなおす



人気エリアの 自転車マップのしかけ

グリーンマップ横浜は、2006年4月、「ハマチャリ新聞+ロードマップ&グリーンマップ横浜・ベイエリア版」を発行しました。サイズはA3版蛇腹折り、折畳むと8.5×15cmのポケットサイズになります。

2003年に実施した第1回目のフィールドワーク以来蓄積してきたデータを、中区ベイエリアを中心にまとめた、グリーンマップ横浜としては初めての印刷版グリーンマップの発行となります。裏面は新聞形式で、環境や文化、観光スポットなどの記事を掲載しています。市内7ヵ所のハマチャリステーション(新高島、日本丸、伊勢佐木町、馬車道、赤レンガ倉庫、大さん橋、石川町駅)をはじめ、桜木町の観光案内所やホテルなど市内各所で無料配布されました。

このマップは、グリーンマップ横浜とNPO 法人ナイスヨコハマ、(株)YC・ドキュメントが 共同で制作しました。「ハマチャリ」とは不法 投棄された自転車を修理して、レンタサイク ルとしてリサイクル活用する活動の愛称です。 NPO法人ナイスヨコハマが運営しています。

グリーンマップ横浜のメンバーでハマチャリのボランティアスタッフである青木杏は、ハマチャリ・ユーザーからかねてより要望の



強かった自転車ロードマップを、フリーペーパー形式の広告モデルとして持続的に発行可能なスタイルとすることを発案しました。マップ制作をグリーンマップ横浜が担当し、広告営業と印刷は、NPO価格を設定して市民活動を支援するプリントショップを経営する(株)YC・ドキュメントが担当しました。三者の持ち味を生かした協働事業として継続的な発行を目指しています。







カーフリーデーの様子。

インパクト

カーフリーデーと連携したより大きな動きへ

「カーフリーデー」は1997年にフランスの地方都市ラ・ロッシェルで、「車のない日」が実施されたのを端緒として、フランス、イタリアを中心に広がりました。2000年にEUのプロジェクトとしてヨーロッパ全体に広がり、毎年世界中で1000以上の都市でカーフリーデーが実施されています。

2004年から毎年開催されている「横浜カーフリーデー」は、市民主催による、世界でもユニークな活動として注目されています。2007年も約60の市民団体が参加して、日本大通りとイセザキモールをカーフリーゾーン(道路を車から解放する)にし、横浜公園を含めたエリアでさまざまなイベントが行われました。

「カーフリーデー」は交通環境ばかりでなく、 まちのにぎわいから地球温暖化まで幅広いテーマを横断的に扱う活動です。「横浜カーフリー デー」は、横浜市市民活動共同オフィスに入居 していた団体の連携から始まりました。グリーンマップ横浜とナイスヨコハマのコラボレーションもここから始まりました。

グリーンマップ横浜では、共同代表のふたりがそれぞれ運営委員として積極的に参加しています。高橋は広報担当としてポスターやマップの制作を、また中村は日本大通りをカーフリーゾーンにするために大活躍をしました。市民

主体の団体が交通規制を 伴うイベントを行うこと は、とても大変なことです。 地域の利害関係や法律等 の規制を細かく調整して いくことは、行政との協 働における格好の鍛練の 場となっています。

幸い、2005年に日本で 初めて車両の通行止めを 伴うカーフリーデーを実 施することができ、2006年、2007年にはさらにエリアを拡大して開催することができました。私たちは、2009年の横浜開港150周年に向けて、横浜中心部の広いエリアで道路を解放して、"めざしたいまちの未来"を体験し、自分たちで創る自分たちのまちを考えることにつなげていきたいと考えています。

文:青木杏、高橋晃

(ナイスヨコハマ+グリーンマップ横浜)

カーフリーデー ポスター



アートをテーマにイベントでワークショップ

横浜カーフリーデー関連団体のホームページ

グリーンマップ横浜 http://www.greenmap-yokohama.net/
(株) YC・ドキュメント http://www.ycd.co.jp/ 横浜市市民活動支援センター http://www.npo-c-city-yokohama.jp/ 横浜カーフリーデー http://yokohama-car-free.com/



活動エリア:愛知県豊田市

豊田市環境学習施設「eco-T

URL: http://www.eco-toyota.com/mail: info@eco-toyota.com



環境学習施設にできた地域のグリーンマップ活動拠点

豊田市民の エコ活動の拠点として

2007年6月にオープンした豊田市の環境学習施設「eco-T(エコット)」は、市民が中心となり展示プログラムや運営体制の準備が進められてきました。「eco-T」は、新設された豊田市渡刈クリーンセンターの一角に開設されましたが、清掃工場の見学や施設展示だけでなく、環境をテーマにした市民活動の拠点になることをねらいとしています。そのため、施設の案内やプログラムを進めるのは、約30名の市民ボランティアである「インタープリター」の方々です。3つのワーキンググループ、「グリーンマップ」「エコクッキング」「とよたの達人」が立ち上がり、各グループでの展示や講座の企画がインタープリターによって行われています。その一つ、



グリーンマップのグループでは、地元交流館(各中学校区にある公民館のような施設) ごとに、地域でのグリーンマップを広めていくことを目標に、活動を始めています。



(左・上) 末野原交流館でのグリーンマップ講座の様子。オレンジ色のユニホームが、インタープリターの人たち。

(下)講座で作成された地図の一つ。生物や植物、ご みの情報などの他に、「くさい場所」の情報もオリ ジナルアイコンで掲載。五感を使ってまち歩きを した様子が伝わる。



地域資源と地域活動、 世代間をつなぐ

SOUTH AND THE STATE OF THE STAT

(上)入館した正面に大きな豊田市全域の グリーンマップ。施設内には、グリーンマッ プに親しめるコーナーも。

(下左)取材時は、インタープリターが紹介する「安らぎの場所」が紹介されていた。 (下右)eco-T正面玄関 「eco-T」に入ると、正面には大きな豊田市全域のグリーンマップが展示されています。取材時は、インタープリターが紹介する「安らぎの場所」が示され、その場所の説明があります。また、グリーンマップについての説明コーナーもあり、アイコンなどに親しむことができ、実際に地域で制作されたグリーンマップも展示されています。

「eco-T」で重要な役割を担うインタープリターは、施設の案内だけでなく、施設で学んだことを地域で広めてもらうという重要な役割も担って



います。そのため、ワーキンググループでは、各地元でグリーンマップが制作できるよう、サポートしていきます。「eco-T」に近い末野原地区では、地区の環境委員会の協力により、交流館を利用したグリーンマップ講座が実施されました(写真上)。また、次年度は他の地区でもグリーンマップ講座が開かれる予定です。地域のイベントや学校などで、グリーンマップの講座やワークショップを開けるように、現在準備を進めています。

グリーンマップの良さは、地域で取り組みやすく、わかりやすい手法であることです。「eco-T」の運営業務に携わる安宮さんは、「豊田市では、地区でとの自治活動がしっかりしていて、地域活動の基盤が既にできています。さまざまな世代を巻き込みながら、地域資源を見つめ直すことのできるグリーンマップ活動は、地域活動とつなげることで大きな推進力を生み出すことができるのではないでしょうか。」と活動の広がりに期待しています。グリーンマップは、豊田市の地域の環境活動を支える大切なツールとなり始めています。話:安宮勝之さん(eco-T事務局スタッフ)

話:安宮勝之さん(eco-T事務局人ダップ 文:宇佐見良恵 活動エリア:広島県広島市

ひろしまエコピースマップ

URL: http://home.hiroshima-u.ac.jp/ecopeace/mail: sendai@hiroshima-u.ac.jp



親子を結びつけ、地域を識る広島の小学校での取り組み

親子でグリーンマップ

「人と地球の楽しい関係」を地図にするひろしまエコピースマップの活動は5年目です。今年度は広島の小学校4年生を対象にして、保護者・大学生・地方公共団体・企業の協力を得て小学校周辺の環境地図づくりを行いました。ひろしまエコピースマップの特徴は、次の通りです。

- 1.自然環境だけではなく歴史的環境も学ぶ ことができる。
- 2.保護者を含めたさまざまな世代の環境を 学ぶことができる。
- 3.「アイコン」を使って世界中の地域の環境 を学ぶことができる。

このような学習を通して、地域に対する愛 着を育み、環境に対する感性を参加者全員で

背景

研いていきたいと考えています。

とくに、親子との関係は地域環境の理解にとって重要です。親世代が体験した環境は子どもにとってはひとつの歴史的環境です。また親世代が広島出身とは限らず、自分の住んでいるところとは違った環境を理解することにもつながります。そこで、親子をテーマにグリーンマップを使うことを中心に報告したいと思います。

①プレワークショップ



②フィールドワーク



③ワークショップ



4プレゼンテーション



⑤アフターワークショップ



マップづくりの流れ

アイコン学習のプレワークショップから始まって、フィールドワークやワークショップを経て、アフターワークショップまで実施しています。マップづくりは最終的な目標ではなく、自分自身が地域の環境を考えるためのツールです。



親子のギャップを 埋めるメディア

子どもたちは、親といっしょにマップをつくる過程で、親世代の歴史的環境が今でも残っていることを発見していきました。また、保護者は子どもの通学路という観点から特に安全性を重視していますが、自分の子ども時代について考えるようになりました。

同じフィールドワークでも、アイコンは親子で違っています。親は危険な場所を示す赤のアイコンが多く、子どもは自分たちの遊び環境を中心に楽しい場所を示す緑のアイコンをつけています。

文:千代章一郎·八木恵美里 (広島大学大学院工学研究科)



●小学生の発表から

「歩いている途中に僕たちはいいところをみつけました。それは、○ ○製菓といって、最中の皮をつくっていて、なかを見学させてもらいました。なかには、たくさんの機械がありました。広島市で一軒しかなくて、今年で80年になるそうです。すごいなぁと思いました。ひとり1枚ずつ最中の皮をもらって食べました。おいしかったです。」



●保護者の発表から

「公園が、広くてきれいで、歴史的な施設がつくってあったこと。そしてそれだけじゃなくて、遊具やトイレが使いやすくきれいに整備されていたこともよかったと思います。まちの中で、自然の木もあり、外からも適当に視界がある。周りもみえ、安全に憩いの場所として過ごすことができそうだと思って、ここを選びました。」



活動エリア:愛知県安城市

環境アドバイザー養成

URL: http://www.geocities.jp/kankyo_anjo/ mail: kmani27@yahoo.co.jp



「ひとづくり」の手法と、 地域とつながる環境学習プログラムとして活用

環境首都をめざした 「ひとづくり)



安城市では「市民とともに育む環境首都」を めざし、小中学校での総合学習や地域の学習 会などに派遣する「環境アドバイザー」の養成 講座が2003年から行われています。安城市環 境アドバイザーは、2年に1度、養成講座が開か れるたびに増え、2007年現在53名です。安城 市でのグリーンマップ活動は、養成講座で行 われたグリーンマップ講座から始まりました。 さらに、2005年の「愛・地球博」の瀬戸愛知県 館での県民参加プロジェクトに参加するため、 「安城市環境アドバイザー・グリーンマップ制 作班」を結成し、アドバイザーの自主活動とし てのグリーンマップも制作されました。グリー ンマップは、環境アドバイザーが実施する環 境学習プログラムや、環境アドバイザー養成 講座においても、継続的に取り入れられてい ます。また、環境アドバイザーの中から、「環境 劇団いるか」が結成されるなど、独自のプログ ラム開発や活動も積極的に展開しています。







(F)養成講座でのグリーンマップを制作している様子。 (下)養成講座の総仕上げである「環境アドバイザー市民フォー ラム」での発表の様子。グリーンマップを応用した楽しい劇も。

アドバイザーと共に広がる グリーンマップ

環境アドバイザーは、環境学習の依頼があ ると、1~6名で環境学習プログラムを計画し、 実施します。今は約30種類のプログラムが考 案されており、その中の一つにグリーンマッ プがあります。「環境学習を依頼した先生などが、 学外での活動を要望されたとき、グリーンマッ プはとても有効だ」と、環境アドバイザーであ る亀田さん。環境アドバイザーは、子どものグ ループに1名ずつ付き、安全にまち歩きなどの 学外活動をサポートします。遠方から赴任し ている学校の先生も多く、なかなか学校周辺 について熟知できていない場合、地域の環境 や地理に詳しい環境アドバイザーといっしょ に歩いて地域の情報が得られるということは、 先生としてもとても心強い存在になります。 小学4年生を対象に2ヵ月間、週に1回ずつグリー ンマップによる環境学習を実施したときには、 環境に関心を持った児童が多く、1年間の活動

を発表する学芸会で、地域や環境をテーマに した劇を発表したそうです。また、夏休みを利 用した公民館の講座でも、地域の自然への関 心を高めることをねらい、グリーンマップづ くりが行われました。この講座をきっかけに、 公民館での環境学習講座が継続的にできそう だと、実施した環境アドバイザーのメンバー

は期待しています。



(左)安城北部公民館で行われたグリーンマップ講座(まち 歩き)の様子。テーマは「猿渡川の流域の生物」。参加者数25名、 アドバイザーは10名。小学生対象でしたが、親子で参加して くれた人も

(右)養成講座で制作されたグリーンマップと「きづき新聞」 のひとつ。安城市民の環境への思いがぎっしり詰まっている。

このように、グリーンマップは、環境アドバ イザーが実施しやすい環境学習プログラムの ひとつとして定着しているだけでなく、環境 アドバイザー自身の地域への理解とスキルを 高め、環境首都づくりを担う人材育成に貢献 しているといえます。

話: 亀田将紀さん(安城市環境アドバイザー) 文:宇佐見良恵



活動エリア:神奈川県横浜市

舞岡柏尾地域福祉シルバーマップ横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ

mail: rie-n@yk.rim.or.jp



福祉、高齢者の視点でウォーキング マップづくりから生まれる地域の交流



ケアプラザを拠点に 人を呼び込むマップづくり

舞岡柏尾地域ケアプラザは、福祉に関する相談、調整などの地域包括支援センターの運営、通所介護などのデイサービス、居宅介護支援事業、地域のボランティアの活動・交流を行う地域活動交流事業、福祉機器などの展示・紹介などを行っています。2006年、当館のケアサポート構成員と地域の皆さん、舞岡中学校の福祉委員会の方々と共にウォーキンググリーンマップVol.1を作成しました。ふだん歩き慣れているまちも、いろんなことがみえてまちの再発見になり、まち歩きもとても楽しい交流となりました。

2007年、高齢者に焦点を当てた地域の福祉マップを作成することになりました。病院、医院、薬局、福祉施設などの情報を、前年同様グリーンマップのやり方で調査。地域の自然や季節、気がついたお店なども盛り込みました。フィールドワークでは、車イスを使って歩きましたが、僅かな傾斜が急なものに感じられたりしました。掲載した情報は、歩いて気がついたものを元に連絡先などをていねいに確認しました。ケアプラザに集まるさまざまな人の情報をいただき、よりステキなマップに育てていきたいと考えています。





(上)舞岡柏尾地域福祉シルパーマップ/2007年発行 (右)舞岡柏尾地域ウォーキンググリーンマップ/2006年発行 地域の人と歩いた記憶として作成。今回の福祉マップの原点です。





高齢者自らが主役

フィールドワークでは、総勢38名の中学生、地域の皆さんが4つのコースに分かれ、プラザから車椅子を携えて出発。グリーンサイトだけでなく、医院・薬局・福祉施設・各種高齢者向けサービス・ボランティアセンターなどの他、車椅子の通りにくい坂、エレベータのあるところ、車椅子トイレのあるところ、コミュニティストア、ベンチのある場所、お年寄りがわいわい寄れる場所(銭湯や理髪店)なども収録したユニークな福祉マップになりました。

高齢者がいつでも使え、手元に置きたい「イエローページ」をイメージし、誌面は、地域性をいかにわかりやすく、温かみのある表現にするかを考えました。ページのイラストは、ケアプラザのある地域で活動している「すみれ会」の絵手紙を載せ、表紙も舞岡中学校の美術部の生徒さんの絵です。人から情報を与えてもらうのではなく、高齢者自らが自分たちのほしい情報を探し、地域の子どもや大人も参加できた交流型の冊子となりました。

文:中村利恵(グリーンマップ横浜)







マップづくりの様子。(福祉マップから)

活動エリア:東京都

東京自転車グリーンマップ アーバンエコロジー東京、多摩美術大学造形表現学部デザイン学科 堀内研究室

URL: http://cyclingmap.jp/mail: tokyo@urbanecology.jp



高度な情報デザインで、都心の自転車利用を促進する



都心の自転車観光 そして長距離移動の習慣を 生み出したい

地球温暖化の抑止という大変に重要な社会 的要請に対して、一般の市民を動機付け、行動 意欲を高めることはとても難しいことです。 東京の人は週末に郊外へドライブするのが好 きですが、その代わりにもなる「ライフスタイ ルが楽しく豊かである」という具体性を示す ことが有効であることに気がつき、自転車を 使った都心観光を提案しました。例えば、マイ カーの週末ドライブで富士山あたりまで往復 (約100km)すると1トリップで35kgのCO2を 排出します。これは杉の木3本が約1年かけ て吸収するCO2の量に相当します。これまで に約30万部の印刷版のマップを配布しました が、仮にマップを受け取った人が1回の週末 ドライブをやめて自転車で都心観光をすれば、 1万トンのCO2削減となります。

東京都心部は自転車でちょうどよいスケールのまちなので、自転車の利用を促進することで、クリーンでアメニティの高い環境を取り戻し、地球温暖化の低減にも貢献することをめざしました。東京自転車グリーンマップに表示される自転車に安全な道を走り、名庭園やアートギャラリー、地域の商店街といったグリーンスポットをめぐれば、素顔の東京を再発見することができます。多くのグリーンスポットは自転車で走りやすい裏道にあるので、それらを自転車でめぐることは楽しい体験で、地域の活性化や健康の増進にもつながります。

道がわからない、あるいは途中に危険な交



+>= (>)=(+)=

オンライン版は、自転車利 用者が自由に情報を交換 する場として設置。画面を 拡大縮小でき、情報を書き 込むこともできる。オンラ イン版には、地図づくりに 参加する楽したがある。

差点があるためにごく短距離にしか自転車を使わない、というケースに対して、自転車グリーンマップは適切な情報を提供することができます。トラブルがあった場合に修理をしてくれる自転車店も記載することで、駅前乗り捨ての短距離使用でなく、安心してより長い距離を自転車で移動するという習慣を生み出すことが目標です。おすすめ自転車ルートのほか、レンタサイクルや温泉といった、普通の地図には載っていない情報が網羅されているのが好評です。

東京自転車グリーンマップはインターネットと紙媒体のそれぞれの特徴を組み合わせてつくられています。情報の種類としては「おすすめ自転車ルート」と、グリーンマップアイコンで分類された「スポット情報」があります。オンライン版には登録ユーザーが独自に取材

した地域の情報を記入し、他の利用者がそれを評価することで情報の信頼性が高められます。オンライン版に寄せられた情報をもとに事務局で編集することで、印刷に便利なPDF版が制作されて公開されます。持ち運びに便利な印刷

版も制作され、地域の新聞への折り込み、環境 に関係する公的機関やレンタサイクルスポットなどで無料配布されます。サブバージョン としてアースデイ自転車ライドのためのコー スマップなども制作されます。

(上)向島の路地の取材中。東京の下町らしい風景の発見も、自 転車に乗ればゆっくり楽しめる。

(下)2003年から始まった、東京アースデイ自転車ライド。毎年アースデイ(4月22日)に、自転車に乗る楽しさに加え、都心の移動手段として優れていることを知ってもらうために行われている。







自転車利用者の 視点から作成された デザインレベルも高い地図

ほとんどの市販の道路地図は自動車のため につくられていることがわかり、東京自転車 グリーンマップのベースマップは、自転車利 用者の視点からまったく新しいものをつくり ました。自転車が通れない高架道路を消去し たので、一般の道路地図ではみられない日本 橋川の水面がみえます。そして、自転車利用者 が坂道を避けたルートを選べるよう土地の高 低差を色分け表示したら、昔から変わらない 地形が浮かび上がり、江戸の古地図のように 美しい東京のイメージが再発見できました。 自動車用の地図では細い道が表示されていま せんが、東京自転車グリーンマップではすべ ての道が表示されています。このようなベー スマップの上に安全に走れる自転車ルートが 赤線で示され、自転車利用者に有効な情報が グリーンマップアイコンにより表示されます。 印刷版の携行性とみやすさを両立させること は困難なことですが、長距離の自転車での移 動を計画するために広い範囲を一覧すること ができ、かつ細かい道路がみとれる縮尺とし て1:35000を選びました。

これはこれまでにあるようで無かった地図なので、利用者からは「首都高速道路のないマップというのは新鮮で、不思議と静かな感じがします。」「マップをみていると、高低がよくわかります。」「道にあまり詳しくない私にとっては、どんなルートを選んだらいいのかわからないので、おすすめルートはうれしい。」と

いった声が寄せられています。オンライン版はグーグルマップを使用していますが、グーグルマップは自動車の利用者を想定して作られており、またコンビニエンスストアやファーストフード店などが記載されているのが問題なので、いずれはオンライン版も独自のベースマップでつくりたいと考えています。

2007年に都心部の印刷版を発行しましたが、 2008年には東京23区版を発行する予定で、そ の後も対象とする範囲を次第に拡げていく計 画です。

この活動は環境省の助成金(地球環境基金、チームマイナス6%)を継続的に受けて進められており、最近は企業(株式会社シマノ他)による支援も受けることができました。これまでなかった内容でデザインレベルの高い地図が公共や企業でなく市民団体で作成されたことが評価され、2007年のグッドデザイン賞を受賞しました。

文:堀内正弘(アーバンエコロジー東京)





環境省主催「ストップ温暖化大作戦」全国大会で"モーダルシフト賞"を受賞。モーダルシフトとは、自動車の使用を減らし、鉄道や自転車に交通手段を移行させること。

アーバンエコロジー東京

http://www.urbanecology.jp/tokyo/

2007東京アースデイ自転車ライド

http://www.urbanecology.jp/earthday/



東京自転車マップ/2007年発行 都心中心の印刷版。

活動エリア:北海道函館市

ハコダテ・スローマップ npo-kobo (2007年春以降)

URL: http://www.kanshin.jp/hakodate/

mail: yw@nextdesign.jp



段階的な市民参加の仕組みで、異世代・異分野の知恵をつなぐ

函館らしさを 「スロー」という言葉に込めて

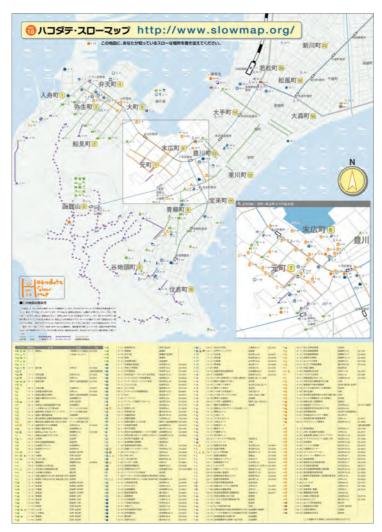
函館のグリーンマップ活動は、2002年秋より、 地域で活動する情報デザイン/IT系の個人 事業者やグループによる自主的な研究プロジェ クトとしてスタートしました。

函館山の山すそから発展した函館は、歴史的なまち並みを抱え、多くの観光客を集める反面、都市コミュニティが弱体化し、環境意識もそれほど高くはありません。そこで、函館らしさを集約するキーワードに「スロー」という言葉を選び、環境とライフスタイル、歴史と文化といったまちに潜在する価値や問題を重ね合わせていくマップづくりを目指すこととなりました。

プロジェクトでは、世界のグリーンマップの展示やまち歩き(フィールドワーク)、マップ制作のアイデア出し、小学生とのオリジナルアイコンの作成、掲載情報の検証や編集など、段階的にさまざまな市民とのワークショップを実施しながら半年間にわたって制作を進め、2003年春に「ハコダテ・スローマップver1.0」の印刷版とウェブサイト版の2種類を発表しました。

その後、東京の社会系コンサルティングファームを中心とした「智財創造ラボ」の実験プロジェクトと連携し、スローマップの掲載情報を新たな形でウェブ上に視覚化する「Context Viewer」に実装。これを「ハコダテ・スローマップ2.0」として2004年初夏に公開。2007年現在もこのサイト上で、ユーザーからの投稿によりコンテンツの拡充が進んでいます。

2007年春から、マップのプロジェクトは新たに立ち上がったNPO「npo-kobo」が継承、引き続きウェブサイトを活用しつつ、新たな印刷版マップの制作へ向けて準備を開始したところです。





(上)ハコダテ・スローマップver1.0の印刷版/2003年発行 A2サイズにカラー両面印刷(再生紙+大豆インク)。5000部を市内各所で配布。

Green Map Icons

*

Ď.

Www.

300

△ uni

1000円のグラ・スローマップ

(下)関心空間の開発による、情報の視覚化インターフェイス「Context Viewer」。その後の開発が中断していたが、近日リニューアルを計画している。







ミカプロジェクト」のフライヤー(チラシ)。

ハコダテ・スローマップの最初のバージョ ンを発表した2003年当時、この地域で市民参 加による情報の共有を試みる活動は他に類例 がなく、大きな注目を集めました。とくに、ワー クショップという参加・体験型の仕組みづく りに行政も着目し、2004年には函館市と民間 の実行委員会からなる都市再生ワークショッ プ事業「ハコダテ・スミカプロジェクト」に結

この事業は、国の都市再生モデル調査の一 環でしたが、子どもからお年寄りまで楽しみ ながら参加できる「場」をデザインすることを 最大の眼目と設定。具体的な活動計画から、関 連イベントの企画、フライヤー(チラシ)やポ スターまで、すべてのデザインディレクショ ンをスローマップに関わったメンバーで担い ました。ワークショップでは、情報デザイン技 法の一つである「ペルソナ/シナリオ法」に着 想を得て、函館に暮らす人々の未来の物語を 発表してもらい、そこに都市再生の具体的な アイデアを盛り込んでもらうことにしました。 結果は、都市計画や建築の専門家もうなるほ どの斬新で、なおかつリアリティの溢れる提 案が続出しました。





ハコダテ・スミカプロジェクトの会場風景

CONTRACTOR OF THE PARTY OF THE andamina and December of Page

CONTRACTOR OF THE PARTY OF The statement of the st NAME OF THE PERSON ASSESSED.

0 ..

2007年11月下旬に実施したnpo-koboの展覧会「縮小する都市の過 去・現在そして未来」のフライヤー。都市の縮小をテーマに、さまざ まなプログラムを展開し、2000人以上の来場者を記録。

飲み歩きイベントで地域起こし

スローマップのメンバーの一部は、「バル街」 というまち歩きイベントの企画・運営にも関 わりました。これは、函館の西部地区(旧市街) に点在する飲食店をスペイン式の居酒屋・バ ルに見立てて、共通チケットで食べ/飲み歩 きをするというもので、春秋のイベントとし て最近では定着してきました。バル街マップ にはアイコンは使われていませんが、旧市街 の魅力再発見という目的にはスローマップの コンセプトが少なからず反映されています。

2007年からスローマップを担っている npo-koboは、企業や大学、公共機関、他のNPO など地域内外のさまざまな主体との異分野コ ラボレーションによるプロジェクトを展開し ています。今後は、都市再生を考える総合的な 展覧会や、モバイルツールの開発と実証、地域 価値を再発掘する「おみやげ」品の企画制作な ど、スローマップで培われた参加型デザイン の発想を生かしながら、都市再生のクリエイ ティブなスタイルを函館から発信することを 目指していく予定です。

文:渡辺保史(npo-kobo代表)

活動エリア:愛知県岡崎市

グリーンマップ in おかざき りぶら・ぶらりマップ作成プロジェクト

URL: http://homepage2.nifty.com/greenmap-okazaki/

mail: sugiura@wild-bird.info





草の根活動の成果と、行政を巻き込んだ旧市街地まち起こしが融合

変わりゆくまちの中に埋もれる 新旧の良さを発掘

「グリーンマップ in おかざき」のメンバーは2003年から、岡崎市の環境や伝統的なものづくりなどをテーマに、ほぼ毎月1回のペースでまち歩きを行い、残したい人・モノ・場所を地図に表し、そのことで今ある豊かさに気づこうと地道に活動をしてきました。

現在、岡崎は自動車社会の影響で駐車場を 備えた大規模ショッピングセンターへと人が 流れ、中心市街地付近の衰退が目立っています。 そんな中、2008年11月1日に市街地の中心に、「岡 崎市図書館交流プラザ」Libra(りぶら)ができることになりました。「りぶら」の建設にあたっては、「市民参加」で計画づくりが行われ、グリーンマップのメンバーも2年ほど前から会議に参加しています。「ただの箱物でない図書館にするにはどうあればいいか」を考え、「福祉のことも取り入れたい」など、市民の立場からいろいろなアイデアを提供し、設計に反映されました。その一環で、「りぶら」を核とした中心市街地の活性化のために、観光や岡崎再発見にも役立つ品質の高い地図をつくって、「りぶら」や観光協会の売店等で販売しようと計画しています。

地道なグリーンマップ活動から 本格的まちづくりへ

2007年春から、新しい地図づくりのために、「りぶら」を中心としたエリアを、「りぶら」のサポーターの市民や行政の担当者・名古屋を代表するイラストレーターの茶畑和也さんといっしょに歩いています。この地図は、岡崎の魅力をイラストで紹介する計画です。例えば和蝋燭や、和太鼓の皮張り・手づくり傘の店・八丁味噌工場等々、今なお岡崎市に残るすばらしい伝統産業に具体的に触れられる場所、たくさん残っている徳川家康や安倍清明ゆかりの寺社、バードウォッチングなど自然観察ができる場所、大正時代にタイムスリップできそうな銭湯などが紹介される予定です。

てれらのスポットを組み合わせて、「まちバス」や所要時間などを考慮した「りぶら」を基点とする観光モデルコースを作り、実際に作成した地図を持って楽しみながら歩いてもらい、「りぶら」での調べ学習に発展すればと考えています。そこには、消え行きそうな伝統産業の維持や、古い建物の保存、またそれらに調和したまちの景観づくりや自然の保護など、誰もが願うまちづくりにつながってほしいという思



徳川家康ゆかりの城下町である岡崎市には、古くから続く伝統的なものづく りが残っている。(上)和ろうそくづくり、(右上)和太鼓づくり、(右下)着物を リフォームした傘づくり。





いも込められています。

グリーンマップのアイコンは、世界中で共有でき、一つ一つの情報をアイコンでシンボル化することで、情報の系統化ができるという利点がありますが、シンボル化するために消えてしまう個性をどう表現するかという課題もあり、今回は、アイコンは使わずにわかりやすく具体的に表現したイラスト入りマップでまとめられる予定です。とはいえ、グリーンマップ活動で培ったまちへの愛着がベースとなって、具体的なまちづくりへの参画につながったのは確かです。話:杉浦仁美(りぶら・ぶらりマップ作成プロジェクト)文:中村眞貴子



「りぶら」は、新図書館のできる施設の名称。その拠点を中心に旧市 街地を歩いてマップをつくる予定。

活動エリア:愛知県尾張旭市

グリーンマップ尾張旭

mail: fwnh2388@mb.infoweb.ne.jp



市民のまち歩きを継続し、集めた情報を行政の事業にも活用



工夫をこらしてまち歩きを続ける

2003年2月から活動を始めた「グリーンマップ尾張旭」は、できるだけ多くの発見が得られるように、グリーンマップ活動のテーマを「自然・史跡・福祉・交通・景観・生活」と幅広く設けています。そして、年に10回のまち歩きとグリーンマップの制作を続けています。まち歩きは、より多くの参加者の関心に合わせられるようにと、毎回違ったコースを設定し、古地図や史跡植物など説明資料も用意されています。また、



まち歩きでは、その地域の歴史に詳しい人と出会い、説明をしてもら えることもしばしば。みんなで教えあい、話しながら歩く楽しさがある。

次回のまち歩きの呼びかけ案内には、前回の まち歩きで制作されたグリーンマップが掲載 されています。そのため、グリーンマップ活動 に参加していない人も、その案内をみただけで、



地元の人からほうき草の使い方をきいているところ。

尾張旭市の歴史資源や自然環境に気づくことができます。毎年行われる市民祭では、尾張旭市全体の大きなグリーンマップを参加者の情報を得ながら制作し、展示しています。



市民の情報が行政との橋渡しに

グリーンマップ活動によって得られた情報は、尾張旭市の環境課にも伝えられています。 職員も「意外と知らないまちの情報を定期的に得ることができる」と、グリーンマップ活動に協力的です。まち歩きの際に、河川がごみで汚れていたことに気づき、グリーンマップをみせながらマップメーカーの若杉さんが環境課に相談しました。すると、環境課の方がいっしょに土木課へ相談に行き、川のごみがきれいに片付けられたそうです。グリーンマップが行政への要望ではなく、まちの現状や問題を伝えるコミュニケーションのツールとして、役に立っているのです。

さらに、尾張旭市主導の事業にもグリーンマップ活動が生かされています。同市の産業課では、貴重な水辺の自然環境の保全として「濁池の環境調査」を市民の意見を取り入れながら実施しました。また、都市計画課による「山辺の散歩道」は、尾張旭市の北部の森林を生かし、市民が自然と触れ合いながら散策できる散歩



道の計画と整備をしています。これらの調査やワークショップにマップメーカーの若杉さんが参加し、グリーンマップ活動で得られた生き物や景観などの情報、いっしょに歩いたメンバーの意見や感想などを伝え、生かしているそうです。このように、市民による継続的なグリーンマップ活動が、市民と行政の継続的な情報共有の一つの形になり、さらにまちを良くする行政の事業にも生かされ始めています。

話:若杉廣巳さん(グリーンマップ尾張旭) 文:宇佐見良恵





(上) まち歩きで撮ったスポットのアイコン付写真展を開催して市 民にPR.

(下・左下)濁池の環境調査をしている様子。この周辺には、生き物が 多く、関連したアイコンがたくさん載っている。



活動エリア:愛知県三河湾六条潟

六条潟グリーンマップ 伊勢・三河湾流域ネットワーク

URL: http://www.isemikawa.net/mail: a-ohya@sc.starcat.ne.jp

貴重な干潟を 埋め立てから守る



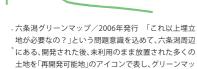
身近な海を知ってもらうために

愛知県にある伊勢湾、三河湾は、多様な生き物が生息する豊かな海です。しかし、その多くの湾岸では開発や埋め立てが進み、海の汚れも心配されています。多くの市民は、川や町と違って、その海の状況を日常的にみることができません。そのため海の豊かさや、海が抱えている問題について、もっと多くの人に知ってもらおうと2005年に制作されたのが、「あいちの海グリーンマップ」です。これまで例のなかった「海のグリーンマップ」をつくるために、海で活動する団体からの情報を集めてつくられました。

海の保全のため、観察会も定期的に行われています。環境学習にも取り組み、小学生と干潟のグリーンマップもつくられました。その時は、干潟に入るのは初めてという子どもも多く、たくさんの生き物に大喜びだったそうです。また、「山崎川グリーンマップ」で活動をする子どもたちが、海のグリーンマップづくりにも挑戦し始めました。



六条潟はアサリの宝庫。愛知県で採れるアサリの稚貝の90% 以上が、六条潟で採れる。





「伊勢・三河湾流域ネットワーク」は、豊かな海を取り戻すため、海と流域の山・川・里のつながりも考えながら活動している。

ROKULIOGATA

ゆるやかに干潟の 危機を伝えた

三河湾に注ぐ豊川の河口には、広大な干潟と 浅場である「六条潟」が広がっています。愛知県 が漁獲量日本一を誇るアサリ漁は、六条潟やそ の周辺で採れる稚貝を他のアサリ漁場にまく ことにより成立っています。干潟は海水の浄化 機能としてとても有効に働き、三河湾の浄化に も役立っています。しかし、干潟の近くに住ん でいても、この貴重な干潟の存在を知らない人 が多いのです。さらに困ったことは、貴重な六 条潟を埋め立てる計画が浮上したことです。

六条潟を守るために、「伊勢・三河湾流域ネットワーク」は毎月観察会をおこなってきました。 2006年に完成した「六条潟グリーンマップ」は、 六条潟の埋め立てを何とか中止してほしいと いう活動から始まりました。制作されたグリーン マップは、六条潟のすばらしさを伝えながら、同時に埋め立ての問題も伝えることができたため、六条潟を知らなかった人たちの関心を集めることができました。そして、グリーンマップづくりという小さな活動から始まり、マスコミも埋立ての問題を取り上げるようになりました。その結果、六条潟の埋立ては中止されました。しかし、残念ながら代替案として人工島の建造案などが浮上し、問題は続いています。そのため、今後も活動を通じて、六条潟周辺の環境を見守っていく必要があります。グリーンマップは、自然環境を見直すためのツールだけでなく、自然環境に起きている問題を伝え、多くの人に自然破壊の問題を喚起することにも役立ったといえます。

話:大矢美紀さん(伊勢・三河湾流域ネットワーク) 文:宇佐見良恵



プを通じて問題を投げかけた。

活動エリア:神奈川県鎌倉市(旧鎌倉地域・七切通し内側)

鎌倉グリーンマップ

mail: to-kgm@excite.co.jp



古都保存と現代生活を調和させる戦略的まちづくり



時代区分でまちをみる

私たち鎌倉グリーンマップは、「歴史都市鎌倉といわれるこのまちにおいて、環境を考えることはどういうことなのか?」という問いからマップづくりをスタートしました。鎌倉は海・山・緑と、古都の史跡・文化遺産の豊かなまちです。私たちはこの古都に具体的にどんなグリーンサイトがあり、どんな特徴があるかを調べ、鎌倉の未来を考える資料にしたいと考えました。

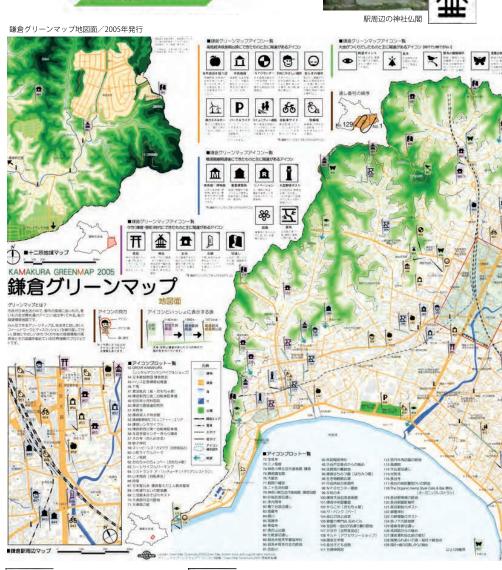
制作の過程では、フィールドワークとディスカッションを必ず組み合わせて行いました。フィールドワークは、みんなで歩く全員参加のものと、不足している情報を個別に調べる小グループ編成のものの2種類を設定しました。結果はミーティングで情報交換やディスカッションをしながら、下書き用マップに書き入れました。調査を進めていくにつれて、私たちが守りたい、もしくは注目してほしいグリーンサイトが概ね4つの時代に分けられることに気付きました。すなわち「最も古い、元々あった地形的な自然」を土台に「中世の武家時代」「近世の別荘・保養所時代」「現代の観光・居住都市時代」の4つです。

最終的に各サイトのアイコン表示は、そのサイトがいつ成立したものなのか、時代区分が一目でわかる旗で色分けし、また、それを古都保全との関係で解説していきました。



時代区分を旗で色分け。











レトロなポスト



主に鎌倉時代につくられた切り通し





インパクト

みえないものを可視化し、 鎌倉の魅力をアピール

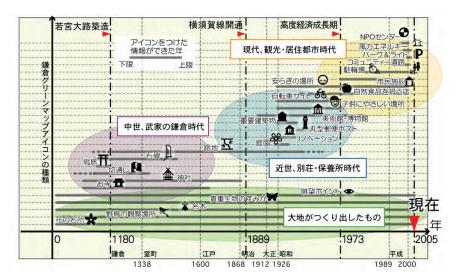
調査の過程で、今まで漠然とみていた鎌倉の認識が、まちの今の姿、歴史や自然を学ぶに従ってよい意味で少しずつ変化していきました。グリーンサイトを4つの時代で分け、どんなアイコンがどの時代に関係するものかを分析し、実際の地図に表していくと、古都保存の戦略がみえてきたのです。

一口に古都保存といいますが、いわゆる文化史跡や遺産の保存に異を唱える人はいないでしょう。これらは主に、1180年以降の鎌倉時代の若宮大路築造以降に建造された神社仏閣です。問題はこれらの有名な神社仏閣以外の元々の地形や自然、横須賀線開通、高度成長期以降にできたサイトで、その中には現在の鎌倉のイメージを形づくっているものも多いのです。

例えばローカルアイコンにした「路地」は、 近世の別荘保養・保養時代にできたものも多く、 鎌倉人の住まいぶりを漂わせる狭い小路ですが、車も通らず奥深い魅力のある空間です。静寂に包まれた小さな公園や見晴らしのいい場所、現在はもうあまりみられなくなった「丸型郵便ポスト」もレトロな雰囲気を醸し出しています。神社仏閣以外にも「石碑」や「切通し」があり、鎌倉の魅力は日頃あまり気づかない多様なもので構成されていることがわかりました。そして、鎌倉総体を守るには、人々があまり気づいていない、時代区分でいうと第3期や第4期にできた魅力的なサイトを市民にアピールしなくてはなりません。

いうまでもなく、私たちは現代に生きています。現代生活といかに古いものとを調和させていくのかが課題です。鎌倉グリーンマップは、まちを楽しく歩くためのマップ、地域住民にとって有用性のあるマップというだけでなく、みえないものを可視化する都市の環境分析となり、まちづくりの具体的な方向性、目標や戦略づくりの道具となりました。

文:島尾真亮(鎌倉グリーンマップ代表)





鎌倉グリーンマップ裏面のサイト解説(部分)

活動エリア:富山県高岡市(JR高岡駅周辺・高岡市広域)

高岡グリーンマップクラフト探検編 富山大学高岡短期大学部 平成17年度現代GP

URL: http://gmap.tad.u-toyama.ac.jp/japanesetoppage.html

mail: watanabe@tad.u-toyama.ac.jp



ものづくりの町で 伝統産業の未来を考え、 発信する産学共同の試み



地方の国立大学の挑戦

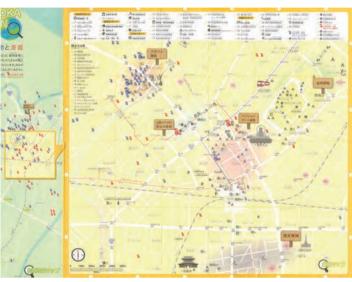
2005年、高岡短期大学は富山県内国立 大学が再編統合されたのを機に、地方の 国立大学で何かユニークな取り組みがで きないかと考え「グリーンマップの作成 を通して、地域情報の国際的発信をめざす」 を主旨に文科省現代GPの認定を受けま した。グリーンマップは環境だけでなく、 大学と地域の結びつきを考えることがで き、デザインの学習としても実質的な教 材であると考えたからです。

地図のコンセプトづくりのために、複 数の科目をリレーしながら、学生たちは、

いくつかのテーマを提 案していきました。当 初、高岡銅器や高岡漆 器をテーマにすること は学生にとっては「あ

たりまえ」過ぎる印象

もあったようですが、工芸の先生の助言 や市民グループの協力で、当地の伝統産 業の特長を再発見することを地図制作 の中心テーマに位置づけました。リサー チの過程で昭和12年の漆器工房の分布 図を古い本にみつけ、現代版高岡鋳物と 高岡漆器の分布図をグリーンマップに 重ね、高岡の伝統産業の「今」を表しました。







(上)高岡グリーンマップクラフト探検編/2007年発行 発行元:富山大学芸術文化学部 (左下)裏面マップはBook仕立てになる! (右下)鋳物工房のリサーチ(利三郎さんにて)。

苦戦強いられる 伝統産業の応援ツール

個人では訪問することのできない小さな工 房やお店の調査を通じて、なぜこの地域にこの 様な伝統産業が根づいたのか、どのような技術 と振興策があったのか、今どこに向かおうとし ているのかを考えることは、実は近代産業の中 でとかく苦戦を強いられているこの地の伝統 産業の未来を考えることだと気づきました。今 後、残したい歴史や技術の工房見学などを企画 し、県外のツーリストにも新機軸を示すことが できます。地方の大学と産業が協力したプログ ラムづくりの素地ができたと考えています。 文:田中裕子(プロジェクト指導講師)





(左上)LRT万葉線には、高岡漆『螺鈿』の装飾がある!(右上)パブ リックアートが並ぶ市民の憩いの場、古城公園「芸術の森」。(下) 鋳物工房が集まる金屋町の町並。

前

産学共同アンテナショップにグリーンマップ

2007年度より高岡駅地下の商業スペー スにオープンした、当大学のGeibun Gallery (学生や教員、卒業生の作品、 高岡の地場産業の作品、産学共同で 開発した商品などを紹介・展示・販売す るギャラリー)は、地元に密着した教育を 行ってきた当校のユニークな試みのひと つです。9月末、「学生ができる身近な環 境行動」をテーマにパネル展を開催。地 元企業の環境報告書などといっしょに 置かれた高岡グリーンマップは、産学共



同の情報発信に一役買っています。

高岡駅地下のGeibun Gallery

活動エリア:愛知県刈谷市

デンソーハートフルデーDECOウォーク刈谷 株式会社 デンソー

URL: http://www.denso.co.jp/SOCIAL/ mail: AKIKO_KAWADE@denso.co.jp



企業からの発信が、人づくり、地域づくりへつながる

企業市民としての 環境保全活動

自動車部品メーカー(株)デンソー(愛知県 刈谷市)は、2004年から世界各地で社員参加 による地域貢献活動を一斉展開する運動「デ ンソーグループ ハートフルデー」を推進して います。当初、デンソー本社では、社員と地域 市民がいっしょにまちを歩きながら清掃を行 う活動に取り組んできました。2006年から、 さらに地域の方々が参加しやすく、魅力的な 活動にするために、清掃活動と併せて取り入 れられたのがグリーンマップです。

この活動では、参加者がグループに分かれて 分担したエリアを清掃しグリーンマップづくり に取り組みます。そして、各グループのマップを ゴール地点で合わせ、大きなマップを完成さ せることで、参加者が活動の達成感と一体感 が得られる工夫を盛り込んでいます。

また同様の方法により、2007年から新入社 員教育でもグリーンマップづくりを行い、社 員の地域貢献や環境への気づきを促すことが できました。同年秋には、デンソーエコポイン ト制度(通称:デコポン)と関連付け、「デンソー ハートフルデーDECOウォーク」と銘をうち、 愛知県4ヵ所と三重県1ヵ所に広がりました。 なお、こうした活動は、地域や大学と連携しな がら進められています。



DENSO







(F)2007年には300名が参加。参加者の感想からは、まちを歩いた楽し

(左下)学生スタッフは、2006年には23名でしたが、2007年には105名に。 ここでの経験を、社会でどのように生かしてくれるのか楽しみ。

(右下)新入社員教育は約500名を対象に5日間実施。区の役員の方は 協力的で、毎日10名程参加し、各グループを案内。

デンソーは、刈谷市の祭り(万燈祭)に本社が所在する地区(桜区)と参加す るなど、地域との関係を一歩ずつ築いてきた。「ハートフルデー」での協力 依頼や完成したマップ内容の確認などを通じて、より一層企業と地域と の連携が始まった。

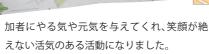
> 小高原小学校 ∞ 0



「企業の取り組み」から大学や 地域でのエコ活動に発展

2006年の活動から、愛知淑徳大学の学生が グリーンマップづくりのアドバイザーや、グルー プを統率するリーダーとして参加しています。 グリーンマップづくりを取り入れたことによ る好影響の一つは、学生が地域市民や企業人 といっしょに清掃活動を実践し、グリーンマッ プという共通のツールを使って、環境につい て考え語り合い、実践的なコミュニケーショ ンを学ぶことができたことです。そして、でき 上がったグリーンマップを学内に展示・情報 発信したことを通じて、多くの関わった学生 が「できることからエコアクションすること」 の重要性に気づいてくれたことです。活動の 輪が広がり、2007年秋の大学祭では、長久手町 の清掃活動とグリーンマップづくりが実現し ました。また、学生たちの一生懸命な姿は、参





もう一つの好影響は、地域と企業の連携強化、 地域市民の新たなエコ活動につながったこと です。デンソーは、これまでも本社が所在する 地区(桜区)との関係を築いてきましたが、「ハー トフルデー」での活動を通じて、より一層地域 との関係が強まりました。そして、2007年の新 入社員教育では、まちのナビゲーター役を桜 区の役員の方にお願いし、清掃とグリーンマッ プづくりを実施しました。その結果、いっしょ にまちを歩いた役員の方から「もっとまちを

きれいにしなければいかん。地区全体の取り 組みにしよう」という声があがり、飲食店の多 い刈谷駅前の商店街の人たちに働きかけ、地 域住民と商店街がいっしょになって行う、月1 回の駅前清掃活動の開始につながりました。

企業が発信したグリーンマップ活動により、 学生や地域の人たちが自ら気づき、新しい行 動が生まれる。そうした相乗効果が少しずつ 現れてきています。

話:川出晃子さん(株式会社デンソー 総務部 企画2室)

文:宇佐見良恵

その他のユニークなインパクト

~世界のグリーンマップから~

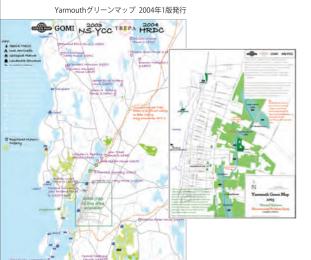
グリーンマップ本部のウェブサイトには 「Impact」というコーナーがあり、世界の各地 で制作されたグリーンマップが及ぼした影響、変 化、改善などについて知ることができます。本文 には掲載できませんでしたが、このコーナーに 掲載されているユニークなインパクトのいくつ かをご紹介します。

田園地帯の総合プロジェクト

ヨーロッパの東の"田園地帯"スロベニアでは、若者を 中心としたPodravje Stajerskaプロジェクトが大きな広が りをみせています。解説つきサイクリングロードやボー ドゲームをつくり、子どもたちのパフォーマンスも行わ れています。これらすべてが、グリーンマップのテーマに沿っ たものです!









バンダ・アチェ・グリーンマップ 2005年発行

災害を乗り越えて

インドネシアでは、つらい津波の体験 に立ち向かい、より環境にやさしく、明 るい未来に向けて、復興の街の姿を市民 が描くツールとして、バンダアチェ・グ リーンマップが制作されました。また、 ニューオリンズのグリーンマップは、大 きな被害をもたらしたハリケーン・カト リーナの教訓から、地元産で、昔から栽 培され、緊急救援食料にもなる「食べ物」 をテーマに、制作が進められています。

河川の緑道計画整備につながる

カナダ・ノバ・スコシア州ヤーマスのユースマップ シリーズ、とくにブロードブルック(Broad Brook)エ リアマップから、ブロードブルック河川地域の保護活 動が生まれ、おまけに地域の緑道計画も生まれました。

市の文化史を掘り起こし

数種類のパイロットマップを発行した チリのCiudad Viva(Living City)プロジェ クトは、現在サンチアゴ市全体の大がか りなグリーンマップ制作に取り組んでい ます。遺跡、リサイクル、エコ交通・輸送、 市民団体を紹介する詳細なマップも収録 予定。文化史を保存するため、シニア市民 主催のワークショップでは、「記憶の街」(皆 が記憶している街の姿)を地図に残して いく作業を行っています。



ことを市民に教育するのに、役立っています。

福建省江口自然保護区 でマップ制作が進行中。

マングローブ林の保全に

中国南東部の「マングローブ保全地域グリーンマップ」は、 マングローブ林が、高潮や海水の上昇から市民を守る自然の バリケードとなっていることや多くの自然の恵みをもたらす **Impacts of Green Map Network**

ネットワーク・インパクト

グリーンマップ活動は、それぞれの地域に根ざした草の根の活動ですが、ネットワークすることによって、より広範な地域、また世界の人々にインパクトを与えています。

Asia

アジアハブミーティング (Asia Hub Meeting) 日本から台湾へ

アジアネットワーク — 近年活発なアジア交流

グリーンマップ参加団体は、現在世界の5大陸に450都市、50ヵ国に広がっていますが、国際的な交流やプロジェクト協働を括発です。
2002年のイタリアベラージオでのグローバル会議や「グリーンマップ・アボラス~マップ制作物語10都市」の出版が候表的なものです。なかでも2005年の「愛・地球博」に併せて開催した第1回アジアハズミーティングを機に、アジア地域での交流が活発になりました。2007年6月には、台湾最大の環境NPOである「荒野保護協会(SOW)」がホストとなり、第2回アジアハブ

ミーティング台湾会議が開催されました。今回は創設ディレクター、ウェンディをはしめ、インドネシア、台湾、ダイ、香港のマップメーカーが参加し、ソウハウの交換、協働プロジェクトの可能性、新システム「グリーンハウス(Green house)」の立ち上げ、中国のマップ制作状況、今後のアジアの結びつきなどを討議。引き続き、各国ハブ間で情報を共有し、本やツールなどお互いの成果物を利用し合うことを話し合いました。

右衛門佐美佐子(ダリーンダップジャパン理事長)





(右上)災害に見舞われたインドネシアのマップ制作者 に寄付。(右下)2005年8月、「愛・地球博」の会場において、 初めてアジアのマップ制作者たちが交流。



(左)2007年6月、台湾にて、2回目のアジア会議。

The second of th

国内外の動向を伝える"グリーンマップハーモニー"。

Japan グリーンマップジャパン (Green Map Japan)

日本をつなぐ「グリーンマップハーモニー」

日本のグリーンマップづくりの活動は、1997年「地球温暖化防止京都会議」(COP3)が開催された年に制作された「京都グリーンマップ」を皮切りに全国に広がり、現在登録団体数は95、完成マップ数は最多の愛知県を含め45となりました。

グリーンマップジャパン(GMJ)は、日本のグリーンマップ情報発信や制作アドバイスなどを行っていますが、好評を得ているのがニュースレター「グリーンマップハーモニー」(A4サイズ8P、年1回発行)です。1年間のGMJの活動や本部・各国ハブとの協働プロジェクトの報告をはじめ、「マップメーカー登場」では制作者を直接取材し、活動目的やグリーンマップ活用の動機・発見などを少し掘り下げた読み物として紹介。「世界のマップから」ではユニークな視点を持った注目のマップを取り上げて

います。また、その年に完成したマップの概要や新規参加団体のリスト、事務局便りを掲載。 GMJウェブサイトのマュース欄と合わせて日本をつなぐメディアとなっています。

> イ衛門佐美佐子 (グリーンマップジャパン理事長)



グリーンマップジャパンのホームページ。日本の情報はここから!

http://www.greenmap.jp/

万博インパクト

愛知県でのグリーンマップ活動の広がりは、2005年に愛知で開催された「愛・地球博」が大きなきっ かけとなりました。瀬戸愛知県館での県民参加プロジェクトのひとつとして、会期中に地域のグリ ンマップを展示しようと、2002年11月に「グリーンマップあいち」を立ち上げて以来、閉幕後もその 活動は続き、現在も国内でもっともグリーンマップづくりが活発な地域として注目を浴びています。 本誌でも、愛知における事例をいくつか紹介していますが、まちづくり活動、企業の社会貢献活動、大 学生によるエコ活動など、さまざまな場面でのツールとして県内に新たな広がりをみせています。

> 2005 会期中

2002

万博への参加を契機に 「グリーンマップあいち」誕生

県内ネットワークづくり・活動サポート



県民参加プロジェクト

瀬戸愛知県館「にぎわいの里」に31グルー プの地域グリーンマップを展示。活動を 紹介するワークショップも開催。アイコ ンシールを貼付できる参加型の大型全県 マップも含めて、来館者にインパクトを



「地球市民村」でグリーンマップ館

国内のNPO/NGOが海外パートナーと 組んで出展する地球市民村では、グリーン マップシステム(NY本部)との連携が生まれ、 県内のグリーンマップ関係者だけでなく、 アジア・国内・一般来訪者・ボランティアと の幅広い交流の場にもなりました。

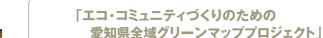


アジア交流に一役

万博会場で、アジアで初めての グリーンマップ交流ミーティング。 翌日に別会場でアジアハブ会議 を開催し、台湾での第2回目のア ジアハブ会議につながりました。 (P36参照)



そのネットワークと成果が継承され、 新たなグリーンマップ活動を生み出しています…



- ●県内のネットワークづくり ●地域のグリーンマップ活動サポート
- ●ノウハウ提供や活動ツール開発 ●国内外の情報収集と発信

グリーンマップあいちのネットワーク

県内で、グリーンマップを

活動に取り入れる人たち



-ク会議は 万博後も続いています



新たな活動地域も



情報ツールもできました





県内でたくさんのグリーンマップが生まれています



グリーンマップで使用されるグローバルアイコンは世界中のマップ制作者から提案されたもので、版権があり、グリーンマップの最も大切な資産となっています。グリーンマップシステム本部では、この版権の管理を慎重に行っており、グリーンマップ制作に参加する方(代表者)には登録をお願いしています。

登録のしかた

本部ウェブサイトの全面改訂に伴い、2007年8月から登録のシステムが変わりました。マップ制作者自身が、本部の「グリーンハウス (Greenhouse)」のサイトからグループ情報などを直接入力していただく全世界共通の登録システムになっています。

グリーンハウスのアドレス: http://www.greenmap.org

世界の人々に向けて英語で入力

本部ウェブサイトから日本語を選択します。次に、上のメニューから「参加しよう」を選び、「新規マップメーカー登録」へ進みます。 説明文は日本語ですが、登録は同意書承諾なども含めて、ウェブ上の指示に従って英語で入力します。 ユーザーアカウントが得られれば、マップ制作者だけが入れるページをみることができます。

年会費は自動計算されます

年会費は、設定されているウェブ上の項目を入れると自動計算されます。会費の支払いは、クレジットカードを使った PayPalで、またはグリーンマップジャパンに円建てで支払うこともできます。

すでに登録している人も再登録が必要です

すでに登録済みでマップを完成させた現在休眠中のマップ制作者、進行中のマップ制作者もグリーンハウスに再登録が必要です。再登録をしないと、アイコン使用やグリーンハウスへのログインの権利が失われてしまいます。

必要な資料はツールセンターからダウンロード

グリーンハウスの「ツールセンター」から、さまざまな資料がダウンロードできます。日本語のものも用意されています。

グローバル時代の新たなコミュニティ形成に、このシステムは大いなる貢献をするでしょう。 ログインして、この新しいグリーンハウスのシステムをぜひ体験してみてください。

グリーンマップジャパンhttp://www.greenmap.jpから、「グリーンマップに参加するには」にアクセスしてもグリーンハウスに入ることができます。



登録作業へ進み、同意書承諾なども含めてウェブ上の指示に従って英語で入力します。



新しいウェブサイト「Greenhouse」 参考: 現

愛知県内でグリーンマップを活動に取り入れたいという方は、まず「グリーンマップあいち」にお問合せください。
Tel: 052-339-5715 mail: info@gm-aichi.net

グリーンマップアイコン「Version3」が完成!

持続可能な社会をめざすグリーンマップの活動の心臓部は、グリーンマップシステム・アイコンです。アイコン改編プロジェクトが、グリーンマップシステム(NY本部)とグリーンマップジャパンのメンバーを中心に、3年にわたって進められてきましたが、このほどVersion3が完成しました。

Ver.2が制作されたのは1999年。この間、コミュニティを取り巻く環境も大きく変化し、また、世界中のマップづくりの実体験から多くの意見も寄せられました。Ver.3への課題は、グリーンマップの活動が、今後の持続可能なコミュニティを形成していく上で、どのような手法、方針、思想があるのかを改めてアイコンを通して表明し、かつアイコンデザインそのものの完成度を高め、使いやすさなども含めてその調和を考えることでした。

改訂版アイコンVer.3の特長

1.変化に対応したジャンル分け

変化に対応したジャンル分けで、グリーンマップがめざす方向が どのようなものであるか、より理解しやすくなっています。社会の公平性や人々の活動を促す「公平性と活動」が新しく加わりました。

持続可能な生活

エコ経済

Sustainable Living

グリーンテクノロジーとデザイン

交通と移動
汚染と破壊

自然

植物

Nature

動物

大地と水

アウトドア活動

文化と社会

文化的特徵

Culture & Society

環境情報 公平性と活動

ランドマーク

2.システマティックなアイコンデザイン

アイコンの数はこれまでの125個から169個に増えました。エレメント化された35のパターンランゲージ(右表参照)で、理解しやすく、組み合わせて使用できるように工夫されました。例えば、「買い物袋」のアイコンは基本的に「お店」を意味し、売るものを中に入れることによって、どのようなお店なのかを示しています。

3.目的によって使い分け

グリーンマップに使用されるアイコンの半分以上はグリーンマップアイコンでなくてはなりませんが、それ以外のものは地域で独自にデザインしたアイコンを使用することができます!一般的なランドマークアイコン(右表参照)た加わり使いやすくなりました。また、全体の57個がスタンダード。なアイコンで、子どもたちやコミュニティでのマップづくりには便利です。



パターンランゲージアイコンと組み合わせの例



店 環境にやさしい



環境良品店



ランドマークアイコンの例





公共トイレ

墓地

学校

lcons $^{\complement}$ Green Map System, Inc. 2008. All rights reserved. Green Map R is a registered trademark and used with permission.

Ver.3のアイコン一覧をみたい方は、ここにアクセス! greenmap.org/icons

アイコンのダウンロードは事前の参加登録が必要です(P39参照)。

グリーンマップについて、もっと知りたい方へ

参考書籍

グリーンマップ・アクティビティガイド

2005年3月第1版 頒価:1,000円 企画・発行:NPO法人 グリーンマップジャパン これからグリーンマップをつくろうという方に最適な入門書。URL: http://greenmap.jp/

グリーンマップ・アトラス 第1巻 アジア・北米編

2004年2月発行 頒価:1,000円 企画・発行: Green Map System Inc. アジア・北米の10都市(日本:4都市)でのグリーンマップ制作エピソードをまとめたオンラインブック。パソコンでダウンロードしてご覧ください。(グリーンマップあいちでCD版の入手可能)日本語版 URL: http://www.greenatlas.org/jp/

地圖有氫運動

2005年3月発行第1版 頒価:1,000円 企画・発行: 荒野保護協会 台湾の11地区でのグリーンマップ活動と世界7都市(日本の3都市を含む)の活動を紹介。 (グリーンマップあいちで入手可能)

Mapping our Common Ground

2005年発行 企画・発行: Common Ground Community Mapping Project カナダのビクトリアでつくられた地域のためのグリーンマップガイド。 マップづくりや、ワークショップの事例などが載っている。 英語版。 (グリーンマップあいちで入手可能)

グリーンマップあいちの書籍

エコ・コミュニティへの道しるべ ~あいちのグリーンマップ

2006年3月発行 頒価:800円 愛知県でのグリーンマップ活動から20事例を紹介。

活動テーマ別 グリーンマップガイド

2007年3月発行 頒価:800円

5つのテーマ別に、その活動目的のためにグリーンマップを手法として使った事例を紹介。

世界の動きを知りたい! グリーンマップシステム

http://www.greenmap.org/

世界各国のマップ制作状況を見ることができる!

日本の動きを知りたい!

NPO法人グリーンマップジャパン http://www.greenmap.jp/

日本のマップ制作状況や、参加登録のしかたなどをわかりやすく紹介!

愛知の動きを知りたい!

グリーンマップあいち

http://www.gm-aichi.net/

愛知県内の活動グループやマップ情報を紹介!



Green Map Activity Guide









エコ・コミュニティーの話しるべ

編集後記

今回は、冊子のタイトルが示すように、グリーンマップ活動がもたらすインパクト に焦点を当て、愛知県内だけでなく国内、海外とエリアを広げて、特徴的な事例を ピックアップしてみました。グリーンマップの実効性を具体的な事例からまとめるこ とで、それぞれの立場、テーマで活動する人たちに、なんらかのヒントになればと考 えたからです。

今回の制作に当たり、国内事例については、「NPO法人グリーンマップシャパン」、海外事例については「グリーンマップシステム(NY本部)」の協力を得て、共同で取り組むことができました。ありがとうございました。このような連携ができるのも、グリーンマップならではのネットワークの強みであり、それを生かして、このような冊子を発行することができたことは、まさにインパクトでした。今度は、世界から人々が集まって、直接、このような情報交換ができる場を創ってみたいものです。

この冊子は、グリーンマップシステム(NY本部)より英語版がダウンロードできるようになる予定です。地域に根ざして、グローバルにつながる! あなたもグリーンマップの仲間になりませんか。

グリーン**マップ・イ**ン**パクト**

発 行 日 2008年3月31日

行 NPO法人中部リサイクル運動市民の会

編 集 人 中川恵子

共同編集 グリーンマップあいち

NPO法人グリーンマップジャパン情報提供&調査協力 グリーンマップシステム

制作協力 右衛門佐美佐子 宇佐見良恵 石川リサ

カ川リリ 余吾久美子 守内尚子

Thanks **執筆をしていただいたみなさん/中村眞貴子**

翻訳協力 林 千根/大屋幸子

デザイン mi+kan

別 鬼頭印刷(株)

頒価 / 800円(税込)



グリーンマップはGreen Map System TMの商標であり、アイコン及びロゴには版権があります。禁無断転載・複製。Icons © Green Map System, Inc. 2008. All rights reserved. © Green Map Aichi 2008

この冊子は、平成19年度独立法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受けて作成しています。



めざせ! エコ・コミュニティ